月　日 名前

／100点

【中3】国語 文章問題　説明文 2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

考えがまとまらないとき、とりあえず紙に書いてみると、頭の中が整理されることがある。書く前には分かっていると思っていたことが、書こうとしたとたんに、うまく言葉にならない。そんな経験をしたことはないだろうか。

頭の中の考えは、じつはかなりあいまいである。いくつもの思いが同時にうかび、順番もつながりもはっきりしないまま、なんとなく「分かった気」になっている。ところが、言葉は一度に一つずつしか並べられない。書くためには、どれを先に言い、何と何をつなぐのかを、一つ一つ決めなければならない。書くことがむずかしいのは、このとき、あいまいだった部分がはっきりと表に出てくるからである。

だから、うまく書けないときは、考えが足りない部分がどこにあるかを見つける好機でもある。「なぜなら」の後が続かなければ、理由がまだ考えられていない。「たとえば」の後が出てこなければ、具体的に分かっていない。言葉につまった場所が、そのまま考えるべき場所を教えてくれるのだ。

書いたものを、時間をおいて読み返すことにも意味がある。書いた直後は、頭の中の考えで言葉のすき間を補ってしまい、足りないところに気づきにくい。少し時間がたつと、自分の文章を、他人の文章のように読むことができる。そのときにはじめて、言葉が考えにきちんと追いついているかどうかが分かる。

私たちは、考えがまとまってから書くのだと思いがちである。しかし実際には、書くことによって考えはまとまっていく。言葉は、考えを運ぶ入れ物であるだけでなく、考えを形づくる道具でもあるのだ。

（この問題のための書き下ろし）

問一　筆者は、頭の中の考えはどのようなものだと述べていますか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問二　筆者は、書くことがむずかしいのはなぜだと述べていますか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　言葉は一度に一つずつしか並べられないので、あいまいだった部分がはっきり表に出てくるから。
イ　書くためには、たくさんの言葉を覚えておく必要があるから。
ウ　書いたものは、他人に読まれて評価されるから。
エ　頭の中の考えは、いつも正しいとはかぎらないから。

問三　「言葉につまった場所が、そのまま考えるべき場所を教えてくれる」とありますが、「たとえば」の後が出てこないとき、どういうことが分かると筆者は述べていますか。本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問四　筆者が、書いたものを時間をおいて読み返すとよいと考えるのはなぜですか。書いた直後との違いにふれて、六十字以内で説明しなさい。

問五　筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　考えがまとまってから書くべきで、まとまらないうちは書かないほうがよい。
イ　書くことによって考えはまとまっていき、言葉は考えを形づくる道具でもある。
ウ　言葉は考えを運ぶ入れ物にすぎないので、中身の考えのほうが大切だ。
エ　文章は、書いた直後にすぐ読み返すのがいちばんよい。